

# 唱歌・童謡「英訳」で歌い継ぐ

県内外の研究者や音楽家らでつくる「日本唱歌童謡教育学会」上席理事で、松本短大(松本市)教授の山田真治さん(61)が、唱歌や童謡の歌詞を英訳して小学校の英語の授業で歌ってもらおう構想を練っている。県内ゆかりの唱歌や童謡は多いものの子どもが歌う機会は近年減り、音楽以外の授業でも扱ってもらおうことで「文化の継承につなげたい」と思い描く。27日に同短大で開く学会の全国大会で提案する。

## 松本短大・山田教授 学会で提案へ

## 接する機会減…「英語の授業でも」

全国大会では唱歌、童謡にまつわる研究発表の後、英訳を主題にしたパネル討論が行われる。英訳した歌詞は信濃

教育会などの協力を得て教材としてまとめ、広く活用してもらおう考えだ。

池田町出身の浅原六朗作詞



唱歌、童謡の継承に英訳を提案する山田教授

の童謡「てるてる坊主」、中野市出身の高野辰之作詞の唱歌「故郷」など、県内ゆかりの歌は多い。山田さんは、メダカを驚かせないよう2度目の「そつと」のぞいてみて「らん」を弱く歌う童謡「めだかの学校」を例に、生き物への優しさを育むことができる」と説明。作詞者が込めた思いは、子どもに教育に良い影響を与えるとする。

一方、教育現場で唱歌、童謡を歌う機会は少しくなっている。山田さんの研究室の学生が2017〜19年に県内48の幼稚園で実習した際に歌われた曲を調べたところ、唱歌や童謡は1割程度だった。小中学校でも、教科の多様化で音楽の授業が減っているという。山田さんは「時代に合わないといった声に押され、文化が途絶えてしまっ」と危ぶみ、教科の垣根を越えて歌い継いでほしいと願う。

全国大会は27日午後1時開会。一般参加も可能で、参加費は資料代千円。問い合わせは山田さん(☎090・5854・5115)へ。